

京都市の気候変動適応策の取組



平成31年2月1日
京都市 環境政策局 地球温暖化対策室
担当係長 藤田 将行



京都市における気象災害・健康被害



▲平成30年7月豪雨で増水した鴨川（三条大橋付近）

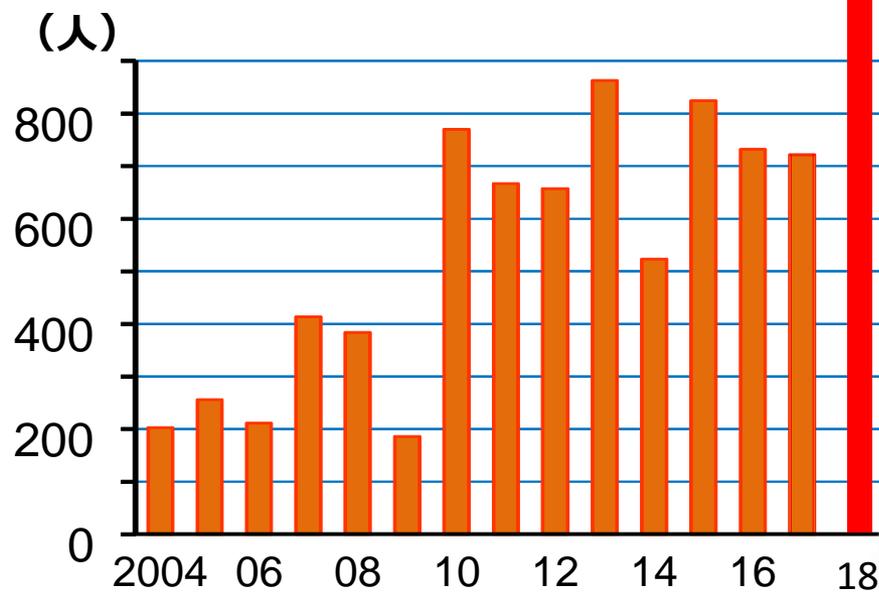


▲平成30年台風21号による土砂崩れ **1550**

▼平成30年台風21号により倒壊した欄干（嵐山）



熱中症救急搬送者数の推移



平成29年3月に京都市地球温暖化対策計画を改定し、 本市における適応策の基本的な考え方を記載！

基本方針

- ① 気候変動やその影響に関する科学的知見の情報収集を行う。
- ② 分野によって気候変動の影響の重大性や対策実施の緊急性が異なることを認識し、国や京都府等と連携し、効果的な対策を推進する。
- ③ 市民、事業者、各行政分野と情報共有し、理解と協力のもと、連携体制を構築する。

対象分野

自然災害

健康・都市生活

水環境・水資源

農業・林業

自然生態系

伝統文化・観光・地場産業

全庁的な連携

京都市長を本部長とする地球環境・エネルギー政策推進本部の下に平成29年7月に「**適応策推進部会**」を設置。科学的知見等を全庁で共有。

施策の進行管理

中長期的な視点で柔軟に施策を推進。

情報収集

科学的知見の情報収集。指標やモニタリング等により市域における影響を把握。

➡ 地域適応センターの確保に向け検討中。

レジリエント・シティ

平成28年5月、米国ロックフェラー財団の「100のレジリエント・シティ」プロジェクトに参加する世界100都市の1都市に選定！

※日本からは京都市と富山市が選定。

京都市における レジリエンスの課題

- 1 自然災害等
- 2 人口減少
- 3 地域コミュニティを取り巻く課題
- 4 文化の伝承や活用に向けた課題
- 5 京都経済の活性化に向けた課題
- 6 空き家など住環境の課題
- 7 景観の保全・継承に向けた課題
- 8 環境共生や脱炭素社会に向けた課題

重点取組分野

- 1 人が育つまち
(人口減少・少子高齢化対策等)
- 2 支え合い、助け合うまち
(地域コミュニティ活性化等)
- 3 豊かに暮らせるまち
(文化・芸術創生、経済・産業発展等)
- 4 快適で安心安全なまち
(景観・町並み保全・創生、空き家活用促進、防犯等)
- 5 環境にやさしいまち
(地球温暖化対策等)
- 6 災害に強いまち
(防災・減災、テロ対策、インフラ老朽化対策等)

危機にしなやかに対応し、発展し続けられる「レジリエント・シティ」の実現には、都市に様々な恵みをもたらしてきた自然との共生が重要。気候変動への緩和策のみでなく、適応策等の取組を着実に実施していくことが、「環境にやさしいまち」「災害に強いまち」のみならず、他の重点的取組分野を支え、京都のまちの持続可能性を高める。

「京都市レジリエンス戦略(案)」「(2019～2040年度)
について、パブコメ実施中(～平成31年2月12日(火))

都市に**人口が集中**（陸地面積の2%に世界人口の半数）

⇒**温室効果ガスの大排出源**（世界の炭素排出量の75%）

気候変動対策における

都市の果たすべき役割の重要性増大



「地球環境京都会議2017（KYOTO+20）」において、

環境と調和した持続可能な都市文明の構築

を目指す**京都宣言**を発信



京都宣言動画

京都宣言に掲げる2050年の世界の都市のあるべき姿

- 自然との共生
- 価値観やライフスタイルの転換
- 持続可能社会構築の「担い手」育成
- 技術革新，気候変動適応策
- 持続可能社会の実現に向けた取組が社会問題の平和的解決に貢献
- 循環型社会の構築
- 都市によるエネルギー自治
- 環境負荷低減と利便性向上の両立

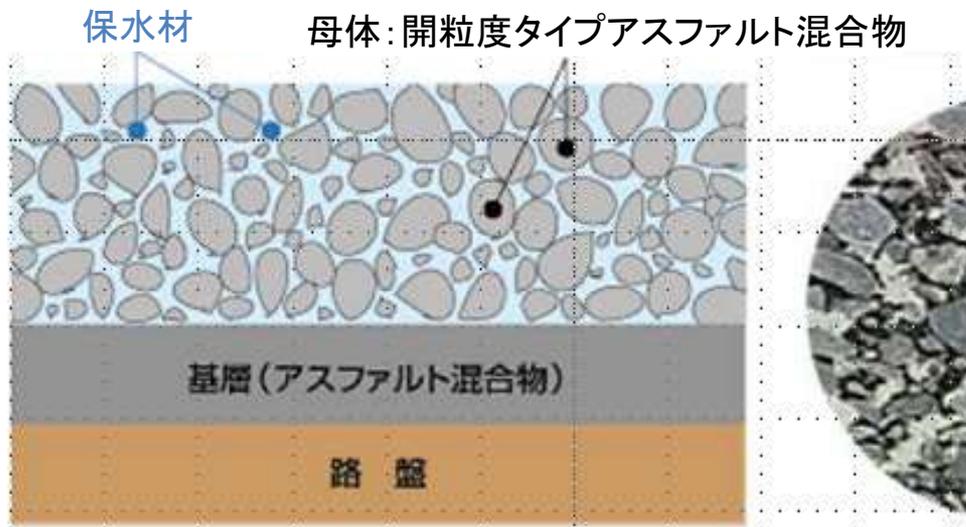
対策例① 石畳風保水性舗装

歴史的な町並みが風情豊かな地域において、景観はもとより、路面温度上昇の抑制効果のある「石畳風保水性アスファルト舗装」を採用。
 小川通においては、無電柱化事業と同時に行うことで、都市防災が向上。
 この界隈で日常的に行われる打ち水の効果も最大限発揮。

＜施工状況＞

- ・下京区膏薬辻子(230㎡, H24完成)
- ・左京区岡崎公園(962㎡, H27完成)
- ・上京区小川通(941㎡, H29完成)
- ・東山区白川沿い道路(約2,900㎡, H30完成)

保水性舗装の構造



施工状況 (小川通)

対策例② 雨庭（あめにわ）

道路の植栽空間を雨水氾濫抑制やヒートアイランド現象の緩和等の多面的効果を期待し、「雨庭（あめにわ）」として整備。

京都の庭園で古くから用いられている山石（やまいし）を使用。加茂七石の一つ・貴船石（現在は産出されておらず貴重なもの）も設置。四季折々の風情が楽しめるように20種類以上の樹木や草花を植栽。

＜四条堀川交差点・雨庭整備概要＞

○「市民公募型緑化推進事業」として実施

（交差点部の緑化や花の咲く木を植えて欲しいという市民意見を基に京都市が緑化を実施する事業）

○面積：約220㎡

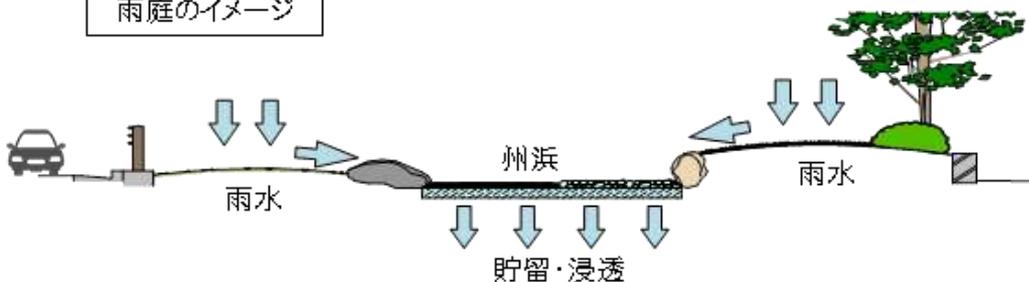
○平成30年4月13日に完成式典

○日常の水やり、除草作業など

地元自治会、企業等がボランティアで実施

※雨庭…道路のアスファルトや屋根などに降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間

雨庭のイメージ



四条堀川交差点に整備した雨庭

地球温暖化，湧水減少，外来生物など，京の食文化を支えてきた天然アユなどの自然の恵み（自然生態系）に対し様々な影響が顕在化している中，鴨川のアユをシンボルとして資源量の復活を図るため，平成23年度から，アユの遡上の障害となる堰に，魚道の設置などの取組を行っている。

（平成23年度 京都市地球温暖化対策室新規事業，平成24年度から農林振興室所管）

＜事業実施主体＞

京の川の恵みを活かす会

- 学識経験者，農林漁業者団体，市民団体，社会教育団体，行政等の関係団体及び個人で構成された連携組織
- 代表：竹門 康弘氏（京都大学防災研究所）



高水温から湧水地へ逃れるアユの群れ（京の川の恵みを活かす会提供）⇒ 平成28年度は夏の高水温が原因で鴨川下流域のアユの多くが死滅



上流域へアユを上らすための魚道設置の様子 8